

国内線

国内 83路線

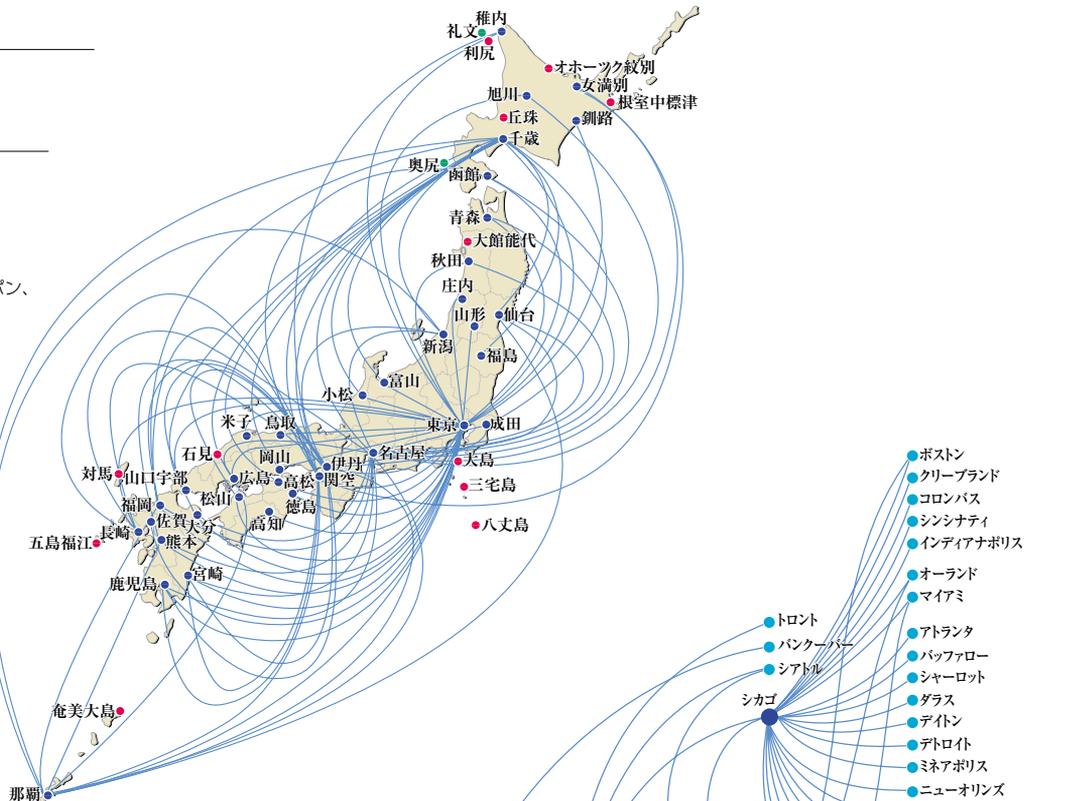
運航便数 533便/日

提供座席数 167,072席/日

2000年6月1日現在

※上記データは全日空、エアーニッポン、エアー北海道3社の合計です。

- 全日空が就航している都市
- エアーニッポンのみ就航している都市
- エアー北海道のみ就航している都市



- 石垣
- 宮古

*6月1日現在のデータです

- ベルリン
- ミュンヘン
- デュッセルドルフ
- ハンブルク
- ジュネーブ
- ウィーン
- アムステルダム
- モスクワ
- ロンドン
- フランクフルト
- パリ
- ウィーン

- 瀋陽
- 北京
- 天津
- 大連
- ソウル
- 青島
- 上海
- 台北 (ANK)
- 厦門
- 香港
- デリー
- ムンバイ (ボンベイ)

- バンコク
- クアラルンプール
- シンガポール
- デンバサル

- グアム
- プリスベン
- シドニー

- シカゴ
- トロント
- バンクーバー
- シアトル
- ニューヨーク
- サンフランシスコ
- ロサンゼルス
- ホノルル
- サンパウロ
- リオデジャネイロ
- ポストン
- クリーブランド
- コロンバス
- シンシナティ
- インディアナポリス
- オーランド
- マイアミ
- アトランタ
- バッファロー
- シャロット
- ダラス
- デイトン
- デトロイト
- ミネアポリス
- ニューオーリンズ
- ニューヨーク (ニューアーク)
- ニューヨーク (ラガーディア)
- フィラデルフィア
- ピッツバーグ
- ロリーダーラム
- ワシントンD.C.
- セントルイス
- ヒューストン
- デンバー
- ソルトレイクシティ
- ラスベガス
- フェニックス
- サンディエゴ
- ボートランド
- シアトル
- ツーソン



国際線

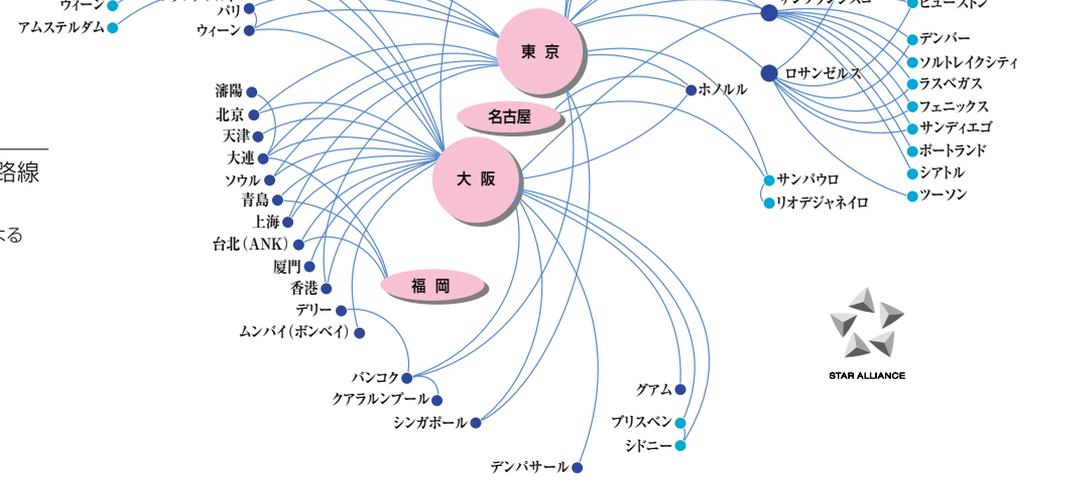
コードシェア便を含む100路線

1,261便/週

(ANA便運航: 354便、他社機材によるコードシェア便: 907便)

2000年6月1日現在

- 全日空が就航している都市
- コードシェア便が就航している都市



株主の皆様へ



代表取締役社長

野村吉三郎

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこことお慶び申し上げます。ここに当社事業報告書「ANA VISION」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

1999(平成11)年度のが国経済は依然として厳しい状況が続き、航空業界においても、引き続き内外の航空会社間や他交通機関との厳しい競争が繰り広げられました。

当社においては国際線で東京/シカゴ線を新規開設する一方、国際線、国内線ともに需給バランスに見合った増・減便、一部路線の休止などより弾力的な生産量調整を行い、収益性の向上につとめました。

また、昨年10月には世界最大規模の航空企業連合「スターアライアンス」へ正式加盟し、メンバーの一員として運航・販売・サービスのあらゆる面において国際競争力の強化を図るとともに、お客様の利便性を大きく向上させていくことができるようになりました。

以上の結果、1999年度は国際線、国内線ともに旅客数は前年度を上回る実績をあげることができました。営業収入につきましては、前年度比1%の伸びにとどまりましたが、近年低落が続いていた旅客単価は期後半以降改善傾向にあります。費用面においては人件費などの費用削減、公租公課の減免措置等の効果が現れてまいりました。この結果、営業利益は前年比で大幅に改善され、206億円を計上することができました。しかしながら資産除却損をはじめとする営業外費用の増加等により経常損失24億円、当期損失97億円計上のやむなきに至りました。

このような状況から、誠に遺憾ながら、株主の皆様への当期の配当につきましては前期に引き続き見送ることと致したく、深くお詫び申し上げますとともに何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

今後ともお予断を許さない経済状況が予想されるなか、航空業界においては、国際線の旅客単価に大きな伸びは見込めず、また、国内線については本年2月の航空法改正による需給調整規制撤廃や運賃自由化により本格的な競争時代を迎えるなど、当社を取り巻く環境は楽観できる状況にはありません。

このような経営環境のなか、当社といたしましては2002年度を最終年度とする中期経営計画の下、安全運航の堅持を第一義に基本品質のさらなる向上を図るとともに、販売体制の刷新による販売力の強化や固定費をはじめとするより一層のコスト削減を通して、収益性と財務体質を抜本的に改善し、株主の皆様からさらなる信頼をいただけるよう全社一丸となって取り組んでまいり所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援のほどお願い申し上げます。



全日空B777-200 通称「トリプルセブン」

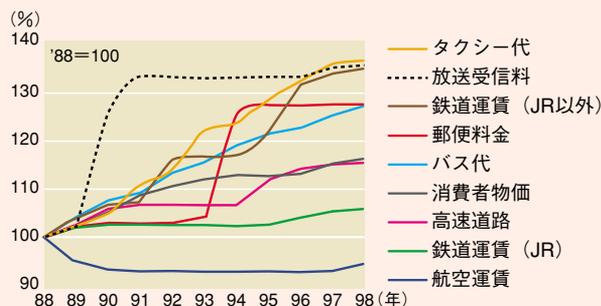
航空自由化は大きなビジネスチャンス 多様な割引運賃の設定で需要を喚起

航空法改正により、航空運賃の設定を原則的に自由に決定することができるようになりました。

これを受けて全日空では、需要動向により柔軟に対応し、できる限り多様なお客様のニーズに適う運賃を提供することを基本方針としてまいります。まず2000年2月には座席制限の一切ない、全国全路線、全便一律片道1万円の割引運賃「超割」を新規発売。また、当日予約や変更が可能なためご要望が多かった「往復運賃」を復活、さらに大変ご好評をいただいている「特割」(ご搭乗の前日迄に予約すれば割引となる)の対象便を大幅に拡大、逆に早期購入や変更制限のある「早割」を一部縮小するなど、お客様へのアンケートの結果も参考にして運賃体系を大きく見直しました。

消費者物価における公共料金の推移

過去11年間で消費者物価指数は約15%上昇し、鉄道、タクシーなど他交通機関が上昇している中で、航空運賃だけは低下しています。



(資料)経済企画庁「物価レポート'99」より作成



ANA! ハンバーガー計画とは?

2000年の元旦から放映されたCM「ハンバーガー計画」は、飛行機とはハンバーガーを食べるようにカジュアルな乗り物であること、そして気軽にご利用いただける多様な運賃を提供していくという全日空の姿勢をアピールするものです。

「ANA!は若い」は「発想が若い」「やる気が若い」「センスが若い」「いろいろな可能性がある」といったチャレンジするANAの気持ちをこめた言葉です。

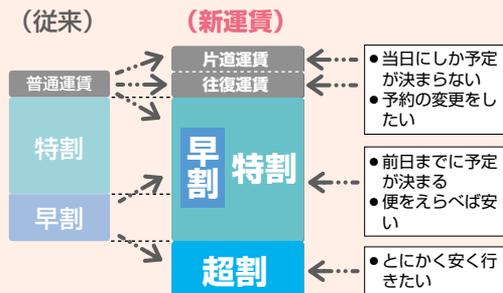


「お客様の中で、どなたか甲子園出場経験のある方はいらっしゃいませんか」という客室乗務員の呼びかけに対し、「あっ、はい」と答える松坂投手。

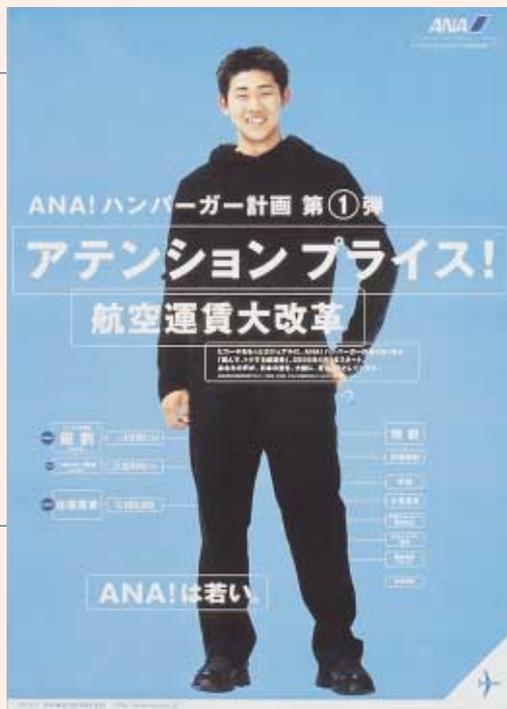
そして松坂投手に重なるように浮かび上がる「ハンバーガー計画ANA」「ANA!は若い」の文字。このテレビCMの後に、「アテンションプリーズ!」「アテンションプリーズ2!」「スカイサーファ―! 世界一周航空券」と3種類続けて、新運賃発表を行ないました。

2000年4月からの新運賃体系(イメージ)

運賃の改定が原則として自由化されたメリットを最大限に生かし、透明性・公平性の高い、より多くの人に利用していただける運賃体系にしました。



ハンバーガー計画実行中



ハンバーガー計画第1弾

「アテンションプライス! 航空運賃大改革」

特定の期間限定で国内のどの便を利用しても一律1万円という従来にはなかったバーゲン型運賃「超割」を設定しました。



ハンバーガー計画第2弾

「アテンションプライス2! アメリカ線パワーアップ」

一段とリーズナブルな正規割引運賃「G・E・T」の新価格を発表しました。例えば、6月1日～29日の「早割G・E・T14」では、成田/ロサンゼルス/サンフランシスコ/シアトルの往復が平日で64,000円、週末では69,000円でご利用いただけます。



ハンバーガー計画第3弾

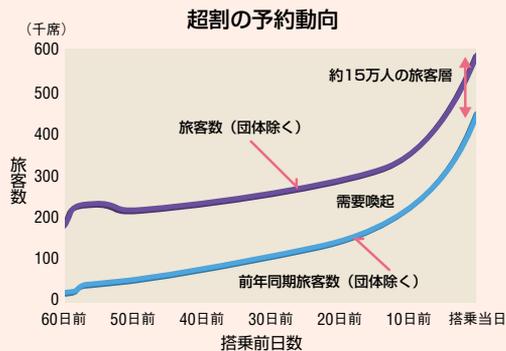
「スカイサーファー! 世界一周航空券」

スターアライアンス加入によるネットワーク上のメリットを最大限に生かした新運賃、それが「スカイサーファー! 世界一周航空券」です。エコノミークラス利用の場合、約32万2,000円で世界を一周することができます。

「超割」が需要喚起の起爆剤に

バーゲン型運賃「超割」は、低需要期にもかかわらず、4月17日から23日までの7日間で、約18万人のご利用をいただきました。

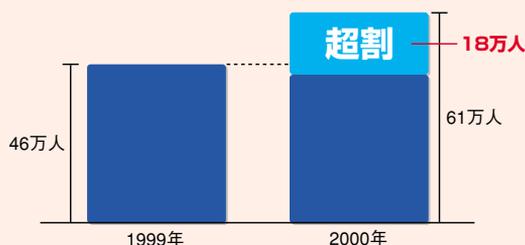
当社ホームページで実施したアンケートによりますと、「超割があったので出かけた」「超割があったので全日空を利用した」との回答が約8割を占めるなど、新規需要喚起に貢献したことが裏づけられました。



販売実績をさらに具体的にみますと、4月17日から23日ご搭乗分の個人旅客数約61万人のうち、30%近くの方が「超割」を利用されました。これにより個人旅客数は前年対比約133%、搭乗率も70%強と昨年度対比で10ポイント強改善する見込みです。

全日空では、7月～9月という高需要期にも超割を延べ10日間設定し、さらなる旅客増を図ります。

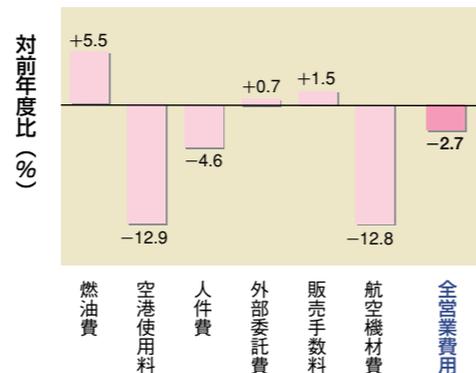
2000年4月17日～23日対前年個人旅客数実績



21世紀に飛翔する企業体をめざし、「中期経営計画」(1999~2002年)を鋭意推進しております。

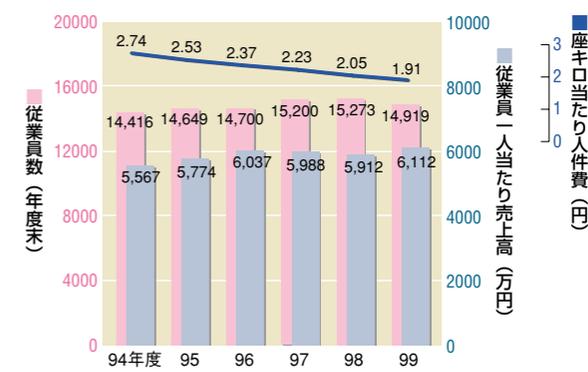
この計画の目指すところは、航空を中心とする全日空グループ全体の収益性を抜本的に改善し、株主、投資家の皆様のご期待にお応えすることと航空サービスの基本品質(安全性・快適性・定時制・利便性)をより一層向上させ、お客様からのより大きな信頼をいただくことにあります。

1999年度営業費用(単体)



2000年度にシカゴ、サンフランシスコ線に投入する最新鋭B777-200ERは、1995年12月に国内線に導入したB777-200の派生型で、B747-400に匹敵する長距離運航が可能ながら燃料消費効率に優れ、収益性の向上が期待できる最新鋭双発ジェット機です。今後全日空ではこのB777-200ERを、B747-400と並ぶ国際線の主力機材と定めています。

従業員生産性の推移



1999年度に実行した主な施策

- ★ 運航路線の「選択と集中」
 - 需要動向に適した国内線運航会社の組み替え
ANA→ANK (関西/松山線など9路線)
ANK→ANA (東京/米子線)
 - マーケティングを軸とした国際路線の再編成
大阪/ローマ線休止、大阪/シドニー線の他社機材による運航開始
東京/シカゴ線開設
- ★ スターアライアンスへの加盟
 - 加盟各エアラインとの連携によりグローバルなネットワークを構築し、競争力を強化(コードシェア運航拡大、運航関連業務の相互委託推進)
 - グローバルなサービスの提供による顧客拡大(目的地までのシームレスなサービス、マイレージサービスの共有化)
- ★ 人件費の削減(対98年度比 ▲80億円)
 - 人員の削減(1999年度 14,500名体制→2002年度 13,200名体制に)
 - 役員、経営管理職の報酬一部カット
 - ベアゼロ、一時金圧縮
- ★ 間接部門の効率化
 - 「BPR推進部」を設置し、ITを高度利用し社内各事業所の間接固定費の圧縮と間接部門人員の削減を推進
- ★ 組織見直し
 - 「社長室」を設置し、社長直轄組織として「中期経営計画」全体の計画・実行を統括
- ★ グループ会社の経営改革
 - 国内の全日空ホテルズの運営体制を見直し、経営組織を効率化
 - 「全日空スカイホリデー(株)」の分離独立
 - 一部事業のスピンオフ(経営権譲渡)
 - 関西空港でのケータリング事業
 - 海外ホテルの一部撤退(1998年度)

2000年度に実行予定の主な施策

- ★ 国際線における低コスト運航体制の構築(ウィンターダイヤ)
 - 価格競争の熾烈な近距離国際路線の一部を新規航空会社へ移管し収益回復を図る
 - 太平洋線へのB777-200ER投入
- ANA→ANK (関西/宮崎線など5路線)
- 関西/ホノルル線の開設
- 関西/ミャンマー線の休止
- 接続便の利便性の向上
- 全社員の月例賃金の一律削減(3年間で総額100億円)

東京~大阪シャトル便計画

東京/大阪間で当社、日本航空、日本エアシステムは、シャトル便のサービスの準備を進めております。東京/大阪間の旅客流動シェアの80%以上は新幹線が占めておりますが、営業割引運賃の拡充に伴って航空のシェアは上昇傾向にあります。シャトル便が実現されれば、新規旅客の取り込みに大きく寄与することになると期待されています。



1999・4~2000・3 全日空の動き

1999

- 4・1 全国6空港での自動券売機でデビットカードサービス開始
- 4・8 全日空ホテルズ「ホテルグランコート名古屋」開業
- 4・13 東京/シカゴ線就航
- 4・21 「ANAチケットレスサービス」開始
- 4・28 「ANAチケネット」開始
- 5・5 日本初、国内線全機に「機内用車イス」を装備
- 5・31 「'99 ANA'sパラダイス」キャンペーン開始
- 6・15 「'99 ANA'sパラダイス」キャンペーン開始
- 6・15 インターネット(Eメール)による国際線予約も受付開始
- 6・17 B777-200ER型機の導入決定。世界初B777全シリーズ発注
- 6・21 ANAマイレージクラブと郵貯の提携カード発行開始
- 7・1 ANAポケモンジェット99就航
- 7・1 本土-沖縄線全路線値下げ開始
- 7・8 ANAマイレージクラブと郵貯の提携カード発行を発表(10月1日実施)
- 7・8 デビットカードサービス提供を全空港・全市内支店(営業所)に拡充
- 7・23 大阪国際(伊丹)空港の南ターミナルへ移転
- 8・10 61便(東京発札幌行)にてハイジャック事件発生
- 8・28 富士全日空ホテル開業
- 8・28 スターアライアンス特別塗装機(B767)を運航開始

'99 ANA'sパラダイス
沖縄キャンペーン

'99年の沖縄キャンペーンはKinki Kidsを起用しました。



最新鋭B777-200ERが太平洋上を飛ぶ！

全日空では東京/シカゴ線と東京/サンフランシスコ線に、日本の航空会社としては初めてB777-200ERを投入。B747-400に導入して非常に話題になった新サービスが同機にも取り入れられています。



バーカウンター(B747-400)



ビジネスコーナー(B747-400)



ANAポケモンモンジェット99



ANAマイレージ
クラブ郵貯カード
を発行

「ANAマイレージクラブ郵貯カード」は、全日空のマイルを貯める楽しさと郵貯キャッシュカードの便利さがひとつになったものです。電話やインターネットでの予約と同時に購入できる「AMC郵貯即日決済サービス」や国内線航空券などが買える「デビットカードサービス」も使えます。

2000

- 9-1 「ANAマイルレーンクラブ」スターアライアンスサービス開始
- 9-1 「ANAマイルレーンクラブ」スターアライアンスサービス開始
- 9-1 国内線航空券の購入期限を「6日以内」に延長
- 9-17 関西／仙台、関西／熊本、福岡／仙台の3路線をANKに加盟
- 10-1 全日空スターアライアンス加盟記念、「この星を飛ばう」キャンペーンを実施
- 10-31 ANAマイルレーンクラブ会員向けに航空券購入方法を大幅に拡大
- 11-10 国内線でビル販売を大幅に拡大
- 1-1 「ANA国際線タイムアップセルキャンペーン」実施
- 2-1 「ANA国際線タイムアップセルキャンペーン」実施
- 2-1 羽田／関西線向けに航空券購入方法を大幅に拡大
- 2-14 ANAマイルレーンクラブ会員向けに航空券購入方法を大幅に拡大
- 2-17 国際線を利用いただいたお客様がさらに充実
- 3-1 新割引運賃「超割」を発売
- 3-6 スターアライアンス世界一周運賃(日本発)を販売開始
- 3-17 国際線インターネット予約開始
- 3-26 GE、IH、当社が日本GEエンジンサービス株式を設立
- 3-31 大阪／ホノルル線開設
- 3-31 関西国際線開設



世界航空連合スターアライアンスに正式加盟。



国際線ご搭乗250万人突破。



大阪／ホノルル線開設

コンピュータ2000年問題について

全日空では、コンピューター西暦2000年問題への対応について、1996年から取り組んできました。万全の準備で臨んだ結果、2000年午前0時において社内ホストのコンピューター・システムおよび運航中だった国際線機材5機にも異常のないことを確認しました。全日空は、安全で快適な空の旅を提供してまいります。

航空保安体制の強化

61便ハイジャック事件後の対策

99年7月のハイジャック事件後、全日空では再発

防止に向けて、以下のような独自の強化策を策定しました。

1. 7月23日をハイジャック訓練の日に設定
2. 社用等で搭乗する社員の座席を特定座席に指定
3. 操縦席と外部の連絡を迅速に行なうための手順を設定
4. 操縦室から客室の状況が確認できる装置を設置
5. ハイジャック発生時の運航乗務員と客室乗務員がとるべき手順の見直し

今後は、各部署の周知徹底を促し、個々の強化策を実施に移していきます。



全日空ホームページ

(百万円)

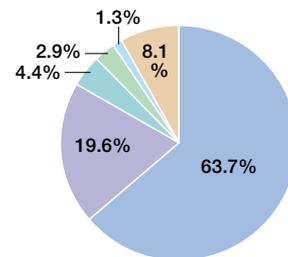
		前期 (1999年3月31日現在)	当期 (2000年3月31日現在)
貸借対照表	資産の部		
	流動資産	299,430	334,978
	固定資産	837,317	866,134
	繰延資産	322	432
	資産合計	1,137,069	1,201,546
	負債の部		
	流動負債	232,276	303,625
	固定負債	727,610	728,353
	負債合計	959,886	1,031,978
	資本の部		
	資本金	72,142	72,142
法定準備金	100,436	100,436	
剰余金(欠損金)	4,603	(3,011)	
資本合計	177,182	169,567	
		1,137,069	1,201,546

		前期 (1998年4月1日から1999年3月31日まで)	当期 (1999年4月1日から2000年3月31日まで)
損益計算書	経常損益の部		
	営業収入	903,024	911,849
	営業費用	916,183	891,243
	営業利益(損失)	(13,159)	20,605
	営業外収益	60,386	27,251
	営業外費用	46,641	50,276
	経常利益(損失)	585	(2,418)
	特別損益の部		
	特別利益	9,246	4,282
	特別損失	16,310	17,429
	税引前当期損失	6,478	15,565
	法人税、住民税及び事業税	110	144
	法人税等調整額	—	△5,976
	当期損失	6,588	9,732
	前期繰越利益(損失)	692	(2,811)
	過年度税効果調整額	—	2,117
	税効果会計適用に伴う租税特別措置法準備金等取崩高	—	2,444
当期末処分損失	5,895	7,981	

		当期 (1999年4月1日から2000年3月31日まで)
損失処理	当期末処理損失	7,981
	特別償却準備金取崩額	1,282
	合計	6,698
		これを次のとおり処理いたしました。
	特別償却準備金積立額	905
次期繰越損失	7,603	

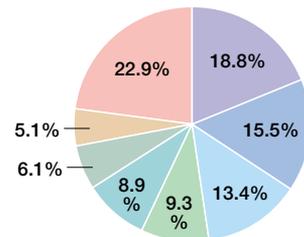
(注) 特別償却準備金の取崩及び積立は租税特別措置法の規定によるものである。

■売上構成比



国内旅客 国内貨物
国際旅客 郵便輸送
国際貨物 附帯事業

■営業費用内訳(単体)



人件費 航空燃油費
公租公課 販売手数料
外注費 減価償却費
機材貸借費 その他

連結財務諸表

1999年度から決算発表等のディスクロージは連結情報を主体として行われております。今年からANA VISIONでも全日空グループの連結決算の概要をご報告させていただきます。

(百万円)

		当期 (2000年3月31日現在)
連結貸借対照表	資産の部	
	流動資産	443,052
	固定資産	1,073,668
	繰延資産	1,587
	為替換算調整勘定	16,310
	資産合計	1,534,617
	負債の部	
	流動負債	498,502
	固定負債	935,726
	負債合計	1,434,228
	少数株主持分	
		2,933
	資本の部	
	資本金	72,142
資本準備金	90,135	
連結欠損金	64,379	
自己株式	△442	
資本合計	97,456	
負債、少数株主持分、資本	1,534,617	

当期 (1999年4月1日から2000年3月31日まで)

		当期 (1999年4月1日から2000年3月31日まで)
連結損益計算書	経常損益の部	
	営業収入	1,209,647
	営業費用	1,178,088
	営業利益	31,559
	営業外収益	37,476
	営業外費用	67,550
	経常利益	1,485
	特別損益の部	
	特別利益	5,620
	特別損失	29,794
	税金等調整前当期純損失	22,689
	法人税、住民税及び事業税	5,951
	法人税等調整額	△11,427
	少数株主損失	2,012
	当期純損失	15,201

■連結キャッシュ・フロー計算書

当期 (1999年4月1日から2000年3月31日まで)

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	77,249
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△85,207
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	45,640
4. 現金及び現金同等物の換算差額	△7,367
5. 現金及び現金同等物増加額	30,315
6. 現金及び現金同等物の期首残高	184,612
7. 連結範囲変更に伴う影響額	22,513
8. 現金及び現金同等物の期末残高	237,440

■事業別セグメント情報

(百万円)

		当期 (1999年4月1日から2000年3月31日まで)
航空運送事業	国内線	692,117
	国際線	223,544
	その他	64,842
	営業収入	980,503
	営業費用	954,811
	営業利益	25,692
旅行事業	営業収入	135,877
	営業費用	132,551
	営業利益	3,326
ホテル事業	営業収入	77,373
	営業費用	73,535
	営業利益	3,838
その他の事業	商事・物販	124,790
	情報通信	16,532
	その他	34,899
	営業収入	176,221
	営業費用	176,439
	営業利益	△218
営業収入計		1,369,974
セグメント間消去		△160,327
連結営業収入		1,209,647
営業費用計		1,337,336
セグメント間消去		△159,248
連結営業費用		1,178,088
連結営業利益		31,559

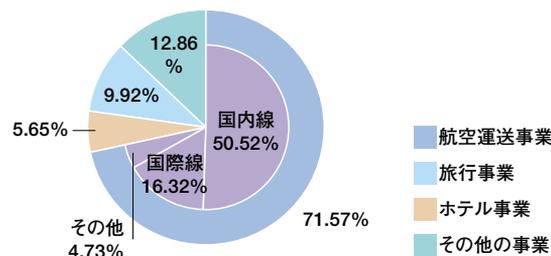
■当社の連結対象会社

(2000年3月31日現在)

	連結子会社	持分法適用会社
航空運送事業	29	4
旅行事業	12	4
ホテル事業	24	4
その他の事業	50	21*
	115	33

*持分法適用子会社6社を含む。

■連結売上構成比



会社概要 (2000年3月31日現在)

商号	全日本空輸株式会社 All Nippon Airways Co.,Ltd.		
設立	1952年12月		
本社所在地	東京都大田区羽田空港三丁目5番10号		
資本金	72,142,799千円		
従業員数	14,919人		
役員 (2000年6月29日現在)			
代表取締役社長	野村吉三郎		
代表取締役副社長	大橋 洋治	中町 義幸	八木 功
常務取締役	木下 昌浩	久宝 互	西川 寧是
	東園 基宏	諸橋 泰	進 和久
	大内 学	牧 謙	戸矢 博道
取締役	小野紘一郎	野村 紘一	山本 正
	大前 傑	木本 靖彦	太田 正
	山元 峯生	谷口清太郎	上山 善紀
監査役	小宮 和彦 (常勤)	沢田 昌幸 (常勤)	
	伊藤 義郎	大野 茂	

※監査役 伊藤義郎および大野 茂の両氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条1項に定める社外監査役である。

主なANAグループ企業

エア・ニッポン株式会社

事業内容: 定期航空運送事業
国内乗り入れ43都市、海外1都市 (エバー航空との共同便)
資本金: 5,400百万円

全日空整備株式会社

事業内容: 国内外エアラインの航空機整備
資本金: 7,000百万円

株式会社インフィニトラベルインフォメーション

事業内容: コンピューターによる各種旅行予約情報サービスの提供
資本金: 6,000百万円

全日空スカイホリデー株式会社

事業内容: 国内パッケージツアー「全日空スカイホリデー」をはじめとする旅行商品の企画・販売
資本金: 54百万円

全日空ワールド株式会社

事業内容: 海外パッケージツアー「全日空ハローツアー」をはじめとする海外旅行商品の企画・販売
資本金: 50百万円

全日空エンタプライズ株式会社

事業内容: 国内外にある「全日空ホテルズ」の経営および運営受託 (国内28、海外10、合計38ホテル、総客室数13,319室)
資本金: 30,000百万円

全日空ビルディング株式会社

事業内容: 不動産の賃貸および販売
資本金: 7,166百万円

全日空商事株式会社

事業内容: 全日空グループの総合商社
資本金: 360百万円

運航機材 (2000年3月31日現在)

B747-400 22機



B747SR 11機



B747-200B 4機



B777-300 5機



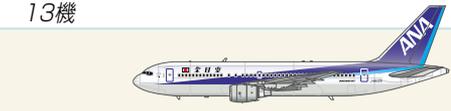
B777-200 13機



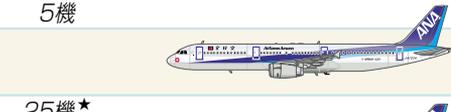
B767-300 42機



B767-200 13機



A321-100 5機



A320-200 25機★



合計 140機

※リース賃借機を含む。
★エア・ニッポンとの共通運用機を含む。

株式の状況 (2000年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 2,203,200,000株

※ただし、株式の消却が行なわれた場合は、これに相当する株式数を減ずる。

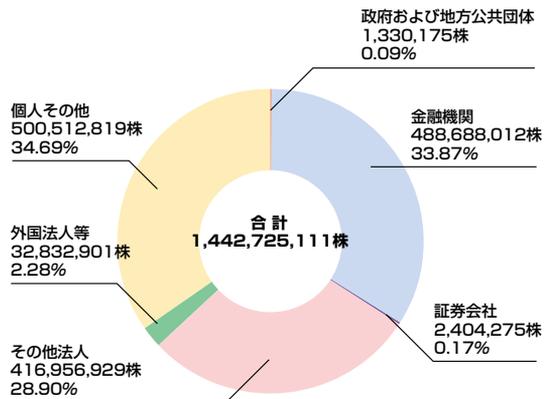
発行済株式総数 1,442,725,111株

株主数 162,878名
(前期末比 16,714名増)

大株主

株主名	所有株式数 発行済株式総数に対する割合	
名古屋鉄道株式会社	73,489千株	5.1%
協栄生命保険株式会社	32,854千株	2.3%
東京海上火災保険株式会社	30,538千株	2.1%
株式会社朝日新聞社	24,376千株	1.7%
同和火災海上保険株式会社	23,011千株	1.6%
株式会社さくら銀行	21,881千株	1.5%
株式会社東京三菱銀行	21,188千株	1.5%

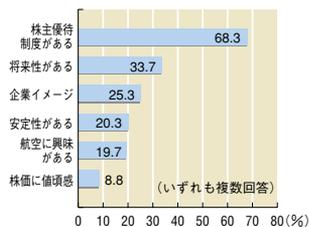
株主別所有株式数の状況



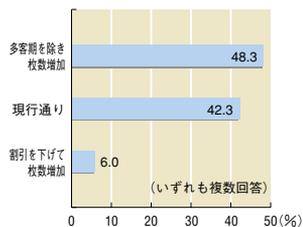
ご報告 株主様へのアンケート集計結果

第50期中間報告におきまして、株主の皆様にご協力をお願いしましたアンケート集計結果をご報告します。アンケートは、119,928名の皆様に配布、内9,052名の方からのご回答をいただきました。

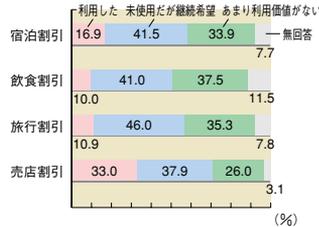
1. 当社株式をご購入いただいた動機



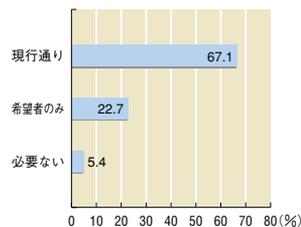
2. 搭乗優待制度について



3. グループ優待券について



4. カレンダーについて



当社では、株主の皆様のご意見、またはアンケートの結果等をふまえ、2000年度株主優待制度の拡充策として、「株主特別優待券」を新設、全日空商事(株)通信販売のご優待割引を新たに追加いたしました。ぜひご利用いただければ幸いです。アンケートのご協力ありがとうございました。

株主の皆様へ、全日空グループをもっとご愛顧いただくために。

全日空国内線ご搭乗優待

3月31日現在で1,000株以上、9月30日現在で2,000株以上ご所有の株主の皆様へ、下記の発行基準に基づき全日空国内全路線でご利用いただけるご搭乗優待券を発行いたします。

AIR

株主優待券

全日空国内全路線の片道(1区間)が**50%または25%割引相当額**の優待価格でご利用いただけます。詳しくは右記の株主優待価格表をご確認ください。
※路線ごとに優待券ご利用必要枚数があります。

株主優待券発行基準

ご所有株式数	発行枚数	発行回数	発行基準日(ご送付日)
1,000株～1,999株	2枚	年1回	3月31日(5月下旬)
2,000株～100,000株	1,000株毎に1枚	年2回	3月31日(5月下旬) 9月30日(11月下旬)
100,001株以上	100枚+超過分 3,000株毎に2枚		

AIR

〈新設〉株主特別優待券

全日空国内全路線の片道(1区間)が、本券1枚で**50%割引相当額**の優待価格でご利用いただけます。

株主特別優待券発行基準

ご所有株式数	発行枚数	発行回数	発行基準日(ご送付日)
1,000株～10,999株	1枚	年1回	3月31日(5月下旬)
11,000株～20,999株	2枚		
21,000株～30,999株	3枚		
—	—	—	—

※「株主優待券」1枚につき0.1枚の割合で発行いたします。(1枚未満の端数は切り上げ)

ご利用上の注意

●ご使用対象の範囲

株主様ご自身はもちろんのこと、株主様以外の方もご使用いただけます。

●優待券の有効期間

株主優待券

上期発行分(5月下旬発送予定)…6月1日から11月30日まで

下期発行分(11月下旬発送予定)…12月1日から翌年5月31日まで

株主特別優待券

6月1日～翌年5月31日まで(5月下旬発行)*

★一部搭乗不可期間があります。2000年度の搭乗不可期間(8月4日～8月20日、12月28日～翌1月8日、3月16日～3月26日)

ただし、有効期間内に航空券をお求めになれば航空券有効期間内のご搭乗は

全日空グループ各社ご優待

3月31日現在、9月30日現在で1,000株以上ご所有の株主の皆様へ、5月末および11月末の年2回全日空グループ各社でご利用いただける「全日空グループ優待券」を発行いたします。

ホテル

国内全日空ホテルズご優待

全日空ホテルズ(国内)で、ご宿泊 **20～30%割引**

レストラン・バー **5～10%割引**

ご婚礼 ご優待特典あり

※レストラン・バーの割引および婚礼のご優待は一部適用除外のホテルがあります。

※婚礼優待特典は各ホテルにより異なります。

ツアー

海外・国内ツアーご優待

全日空国内パッケージツアー(全日空スカイホリデー)が**7%割引**

全日空海外パッケージツアー(全日空ハローツアー)が**7%割引**

※優待券1枚で5名様までご優待料金にてご利用いただけます。

※割引は全日空スカイホリデー(株)もしくは全日空ワールド(株)に直接お申込の場合に限ります。

ショッピング

ショッピング割引

国内33空港全日空商事株直営売店

ANAホテル内売店「トリトングート」お買物は**10%割引**

※一部適用除外商品があります。

通販

〈新設〉通信販売カタログご優待

通信販売カタログANA SKYSHOPをはじめ、全日空商事株の通信販売カタログでのお買物が**7%割引**

可能です。

●重複割引

株主優待と当社所定のその他の割引とは、重ねてご利用いただけません。

●お知らせ

- 株主優待券をご利用になって航空券をお求めののちご搭乗を取りやめた場合、払い戻しの際にお渡しする「優待証未使用証明書」をご提出いただきますとそのまま再利用できます。
- スーパーシートご利用の場合はスーパーシート料金が別途かかります。
- 株主優待券の有効期間経過後のご利用はできません。
- 本券は再発行いたしません。
- エアーニッポン便(ANK)・エアー北海道便(ADK)はご利用いただけません。

株主優待価格表(大人) <株主ご優待価格が年間定額となりました>

(2000年6月1日~2001年3月31日)

※片道運賃→平成12年6月1日現在

路線	片道運賃 (満12歳以上) 税込運賃(円)	株主優待価格				
		50%相当割引後価格		25%相当割引後価格		
		価格 (税込) (円)	必要枚数 (片道)	株主特別優待券 必要枚数 (片道)	株主優待券 必要枚数 (片道)	株主優待券 必要枚数 (片道)
札幌	28,000	14,000	4	1	21,000	2
稚内	36,500	18,250	4	1	27,400	2
女満別	35,000	17,500	4	1	26,250	2
旭川	34,000	17,000	4	1	25,500	2
釧路	33,000	16,500	4	1	24,750	2
函館	26,500	13,250	3	1	19,900	2
青森	25,500	12,750	3	1	19,150	2
秋田	20,500	10,250	2	1	15,400	1
庄内	17,000	8,500	2	1	12,750	1
山形	15,000	7,500	2	1	11,250	1
名古屋	15,000	7,500	2	1	11,250	1
富山	18,500	9,250	2	1	13,900	1
小松	18,500	9,250	2	1	13,900	1
大板	18,500	9,250	2	1	13,900	1
岡山	25,500	12,750	3	1	19,150	2
広島	26,000	13,000	3	1	19,500	2
山口部	29,000	14,500	3	1	21,750	2
鳥取	25,000	12,750	2	1	19,150	1
米子	26,500	13,250	3	1	19,900	2
高松	25,000	12,500	3	1	18,750	2
徳島	25,000	12,500	2	1	18,750	2
松山	27,000	13,500	3	1	20,250	2
高知	26,500	13,250	3	1	19,900	2
福岡	31,000	15,500	4	1	23,250	2
佐賀	31,000	15,500	4	1	23,250	2
大分	30,000	15,000	3	1	22,500	2
熊本	31,000	15,500	4	1	23,250	2
長崎	33,000	16,500	4	1	24,750	2
宮崎	31,000	15,500	4	1	23,250	2
鹿児島	33,000	16,500	4	1	24,750	2
沖縄	34,500	17,250	6	1	25,900	3
札幌	35,000	17,500	4	1	26,250	2
稚内	44,000	22,000	5	1	33,000	3
女満別	41,500	20,750	5	1	31,150	3
函館	33,000	16,500	4	1	24,750	2
仙台	26,000	13,000	3	1	19,500	2
新潟	24,500	12,250	2	1	18,400	1
松山	14,000	7,000	1	1	—	—
福岡	18,000	9,000	2	1	13,500	1
大分	16,000	8,000	2	1	12,000	1
熊本	19,500	9,750	2	1	14,650	1
長崎	21,500	10,750	2	1	16,150	1
宮崎	19,500	9,750	2	1	14,650	1
鹿児島	22,500	11,250	2	1	16,900	1
沖縄	28,500	14,250	5	1	21,400	3

路線	片道運賃 (満12歳以上) 税込運賃(円)	株主優待価格					
		50%相当割引後価格		25%相当割引後価格			
		価格 (税込) (円)	必要枚数 (片道)	株主特別優待券 必要枚数 (片道)	株主優待券 必要枚数 (片道)	株主優待券 必要枚数 (片道)	
女満別	37,500	18,750	5	1	28,150	3	
旭川	35,000	17,500	4	1	26,250	2	
札幌	31,500	15,750	4	1	23,650	2	
函館	29,500	14,750	3	1	22,150	2	
青森	27,500	13,750	3	1	20,650	2	
秋田	24,000	12,000	3	1	18,000	2	
仙台	24,000	12,000	2	1	18,000	1	
新潟	21,500	10,750	2	1	16,150	1	
松山	20,000	10,000	2	1	15,000	1	
福岡	21,000	10,500	3	1	15,750	2	
大分	20,500	10,250	2	1	15,400	1	
熊本	24,500	12,250	3	1	18,400	2	
長崎	27,000	13,500	3	1	20,250	2	
宮崎	25,000	12,500	3	1	18,750	2	
鹿児島	27,000	13,500	3	1	20,250	2	
沖縄	32,500	16,250	5	1	24,400	3	
仙台	札幌	24,000	12,000	2	1	18,000	1
福島	札幌	26,000	13,000	3	1	19,500	2
新潟	札幌	25,000	12,500	3	1	18,750	2
富山	札幌	29,000	14,500	3	1	21,750	2
小松	札幌	31,000	15,500	3	1	23,250	2
広島	札幌	39,000	19,500	5	1	29,250	3
岡山	札幌	37,500	18,750	5	1	28,150	3
山口部	札幌	42,500	21,250	5	1	31,900	3
高松	札幌	38,000	19,000	5	1	28,500	3
福岡	札幌	44,000	22,000	6	1	33,000	3
札幌	沖縄	51,500	25,750	8	1	38,650	4
仙台	広島	31,500	15,750	4	1	23,650	2
福岡	沖縄	22,500	11,250	4	1	16,900	2
仙台	沖縄	43,500	21,750	7	1	32,650	4
新潟	沖縄	43,000	21,500	7	1	32,250	4
広島	沖縄	26,500	13,250	4	1	19,900	2
熊本	沖縄	22,500	11,250	3	1	16,900	2

注1 東京=成田、羽田 大阪=関西、伊丹

注2 上記路線については、季節運航・休止等の場合もございます。

注3 小児の場合は、小児運賃の50%割引相当額、25%割引相当額となります。(枚数同数)

株主優待価格表の見方

(例)東京から大阪を片道大人1名様ご利用の場合。

株主優待券2枚で50%相当割引…… 9,250円

特別優待券1枚で50%相当割引…… 9,250円*

株主優待券1枚で25%相当割引……13,900円

★一部搭乗不可期間あり。

国内線

予約・案内センター

☎0120-029-222

5:30~21:50(年中無休)

東京 ☎03-3490-8800 大阪 ☎06-6534-8800

札幌 ☎011-726-8800 名古屋* ☎052-962-6211

福岡 ☎092-752-8800 沖縄 ☎098-861-8800

※名古屋のみ営業時間が6:30~21:00となっております。

●エア・ニッポン、エア・北海道のご予約も承っております。

各種窓口

全日空ホテルズのご予約・ご案内

☎0120-029-501

全日空スカイホリデーのご予約・ご案内

東京 ☎03(5769)8600

大阪 ☎06(6375)8600

名古屋 ☎052(953)8600

札幌 ☎011(222)8600

福岡 ☎092(712)8600

全日空ハロートツアーでの

ご予約・ご案内

株主優待お問い合わせデスク

☎0120-747-860

☎03-5321-8612

全日空商事(株)

ANA SKYSHOPコールセンター

☎0120-283-029

☎03-5354-2277

スカイブッシュホン

☎0120-029-550

24時間・年中無休

航空券と同時にホテル・

レンタカーをご予約

ワン・モア・ダイヤルサービス

☎0120-029-500

5:30~21:50(年中無休)

今日・明日・明後日の便を

ご利用の場合

ビジネスダイヤル

☎0120-029-220

※東京・大阪・福岡地区からご

利用いただけます。

5:30~21:50(年中無休)

全日空のサービスについて

のご意見・ご要望窓口

全日空カスタマーデスク

☎0120-029-787

9:00~17:00(土・日・祝休)

おからだのご不自由なお

客様のためのご相談窓口

スカイアシストデスク

☎0120-029-377

9:00~17:00(土・日・祝休)

国際線

予約・案内センター

☎0120-029-333

平日9:00~19:00 土・日・祝9:00~17:00

ご予約、運航案内、発着案内、株主優待の詳細、投資家情報等、各種サービスの情報がご利用になれます。

インターネットホームページアドレス

http://www.ana.co.jp/

株主メモ

決算日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年4月1日から3カ月以内に開催
基準日	毎年3月31日
名義書換代理人	住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4番4号
同事務取扱場所	住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付および電話照会先	〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10 東京(府中)042-351-2211 大阪(千里)06-6833-4700
同取次所	住友信託銀行株式会社本店および全国各支店
名義書換手数料	無料
広告掲載新聞	日本経済新聞
証券コード	9202

●お住まいの町名地番が変わったり、転居、改印などなさいましたときは、上記名義書換代理人連絡先、または同取次所までお早めにお届けください。

全日本空輸株式会社

〒144-0041東京都大田区羽田空港三丁目5番10号

総務部 株式・IR推進室 03-5756-5665

ホームページ <http://www.ana.co.jp/>